doubt)」になってしまう。

## ● 学校の先生が教科書に書いてあることしか知らない

① teachers	only know	$(\bigcirc)$ $(\triangle)$	what is in (()) what is written	his or her textbook (())	
	are familiar		in (△)	the textbooks (()	
		$(\bigcirc)$	the material(s)	a textbook (O)	
			in (O)		
			what a textbook	$x \text{ says}$ ( $\bigcirc$ )	
			what a textbook	$x$ has to say $(\bigcirc)$	
☞ 見せかけの have to					
the <u>contents</u> of textbooks (×) ☞ 「目次」					
② all teachers know is things in their textbooks ( )					

①の what a textbook has to sayの have to も〈見せかけの have to〉である。 もともとはa textbook has something to say「教科書は主張すべきことを持っている」である。only は not と同じ位置に入れるのが原則。逆に、英文を読む際は、only が直後の語句ではなく、遠方を修飾することがあることに注意。

ex. Echizen only fell into Nobunaga's hands in August 1573.

「越前は1573年の8月になってようやく信長の手に落ちた」

☞ only は in August 1573を修飾する

「書かれている」をbe writtenと訳すのは英語的ではない。例えば、「夏目漱石の『坊ちゃん』」は英語でどう表すだろうか。

ex. 'Bochan' written by Soseki Natsume ( $\triangle$ )

'Bochan' by Soseki Natsume (())

「夏目漱石によって**書かれた**『坊ちゃん』」と考えてwritten by ~と書く人が 多いが、writtenを入れるのはくどい感じがする。

「教科書の内容」と考えて contents と書いた人もいるだろうが、本の contents と言えば、ふつうは「目次」の意味になることが多い(「目次」の意味では複数形で用いる)。 **material(s)** は「**題材、教材**」の意味で使うときは可算名詞の場合と不可算名詞の場合と両方あるので、複数の-s は付けても付けなくてもよい。

be familiar with ~は「(体験で)~を熟知している」の意味。

## ● 生徒の質問に答える

$\bigcirc$ answer their students' questions $(\bigcirc)$						
	from $(\bigcirc)$ their students $(\bigcirc)$					
	of $(\times)$					

日本語の「の」は必ずしもofで訳せるとは限らない。ofを使う場合は原則として、 $\mathbf{A}$  of  $\mathbf{B}$ と言ったら $\mathbf{A}$ と $\mathbf{B}$ は〈二者一体〉のものに限られる (p.217参照)。②の場合、students  $\mathbf{E}$  questions は〈二者一体〉とは言いがたい。「質問」は「生徒」から発せられるものだから from が正しい。from は〈起点・出発点〉を表す。

## 解答例

- $\langle 1 \rangle$  They say that in order to teach, you have to know at least three times as much as you have to teach, because you never know what your students are going to ask. If teachers are only familiar with the material in the textbooks, they might find themselves unable to answer some of their students' questions.
- $\langle 2 \rangle$  They say that in order to teach something you have to know more than three times what they know because you never know what questions you'll be asked. If school teachers only knew what a textbook has to say, they wouldn't be able to answer student's questions.
- $\Theta$  日本語の第1文と第2文は英語では、 $\sim$  because …と1つの文にまとまる点にまず注意しよう。

日本語の第3文(英語の第2文)は、「~れば、…であろう」だが、これを〈直説法・近い形〉で書くか、〈仮定法・遠い形〉で書くかを判断しなければならない。〈直説法〉という文法用語はわかりにくいが、これを用いると「現実に十分起こりえること、現実に近いこと」を表すので、簡単に〈近い形〉と命名し直したい。一方、〈仮定法〉は「現実にはまずあり得ないこと、現実から遠いこと」を表すので〈遠い形〉としたい(p.11参照)。「教科書程度の知識しか知らない先生」が現実に存在すると思えば、解答例〈1〉のように〈近い形〉を使う。よって、If節中の動詞はareとなる。主節はmightなので、〈仮定法〉と思われがちだが、mayと